

続きも読む・・・

A 道徳科学習指導案作成(超)×3 入門

道徳科学習指導案作りの入門書です。

これを製本して使うと便利です。表紙と巻頭言で両面印刷。続いて目次ページから最後のページ(25 ページ)までをすべて両面印刷にします。それらを揃えて右綴じにすると、右ページは各レッスンの解説が、左ページはその参考例が載っている見開きのページになります。

『道徳って面白い』と思ってもらいたくて、何度も(6回)書き直したら(超)×3になってしまいました。(笑)

指導案を Lesson1 から順番に作っていくと最後には**自分オリジナルの学習指導案**が出来上がります。特に、道徳科は教師が自分で考えて作った指導案で授業をしないとあまり効果が期待できない特別の教科です。たとえ荒削りでも、教師が自分で考えた指導案には**教師の意思**が宿ります。それが子どもに伝わる、それが道徳授業の醍醐味です。誰が書いたか分からない教師用指導書をなぞるだけの借り物の授業からは教師の意思は伝わりません。

はっきり言って、教科書の教師用指導書には間違っただ指導例がかなり載っています。そんな間違っただ指導例を鵜呑みにして授業を行ってはいは子どもの道徳性は育ちませんし、何より教師の指導力は身に付きません。「教師用指導書を信用するな、見るな」と言わなければならないことは本当に情けないことですが、そうした方がよいと思います。もし見たいなら、自分で指導案を作ってからにしましょう。

教職は大変忙しい業務です。ですから年に1度でいいと思います。「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」とこの「(超)×3 入門」を参考にして学習指導案を作り、授業を行いましょ。その際、これを4回読みましょ。(学習指導案を「書く前に読む」、「書きながら読む」、「書き終わったら読む」、「授業が終わったら読む」)

すると確実に指導力は向上します。授業後に「改善指導案」を作ると、更に向上します。

また、これには「利用の手引き」があります。index「B 特別の教科道徳の基礎基本」のvol.4がそれです。合わせて使うと分かりやすいと思います。